

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ツリーハウス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士、教員免許、社会福祉士の資格を持った職員が勤務。 職員の人数も充実しており、安全性のみならず、より専門性の高い支援ができる体制で運営を行っている。	・職員が様々な研修に参加し、専門性を高めている。 ・施設内でも研修等を実施し、情報・知識の共有を行っている。	・男性職員が少ない為、男性職員の雇用を検討。
2	・職員と保護者の連携が多く取れている。	・活動終了後に様子等を保護者に公式LINEにて連絡。帰りの送迎時に活動の様子等も伝えている。個別での面談、電話相談も実施している。 ・SNSを通じて、情報の発信にも努めている。	・より相談しやすい環境を作る為に、保護者会等の実施を検討する。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者会等の開催による保護者同士の交流機会を設ける支援。	・コロナウイルス、インフルエンザ等感染症の蔓延を踏まえ、自粛していた。 ・開催するにあたり、保護者会実施時間においての、子どもの見守り。	・感染症の蔓延していない時期を考慮しての開催。 ・土曜日もしくは平日午前中に開催することで参加を促す。
2	・建物の構造上、階段や玄関の段差等があり、車椅子が必要な利用者の受け入れができない。	・建物が2階建てとなっており、階段がある。 ・玄関にも段差がある。広さ的にも車椅子での移動は難しい。	・階段、靴を脱ぐスペースには手すりが設置しているが、全介助が必要な利用者の受け入れは、現実的には難しい。
3	・利用児童数が少なく、交流を取りにくい。	・放課後等デイサービスとの定員数があるので、計画的な受け入れを行うべき。	・周知広報活動を活発にしていく。